

シラーのAn die Freude全文と試訳

*An die Freude*は、Friedrich Schiller (1759-1805) が1785年10月末に作詩し、1786年2月、自らが編集する文芸誌「タリーア」(Thalia) 第2号の巻頭に発表した頌詩。最初は9節あったが、その後フランス革命やナポレオン独裁などの時代の流れを経て(1793年にはシラーの「群盗」がウィーンで上演禁止になったという)、1803年のシラー自選詩集第2部の出版に際して第9節が削除され、第1節の語句2箇所ほかが改められた。ベートーベンが初版に出会っていたはずだが、第九を作曲したのはこの改訂版(より正確には、その後出版された1812/18年版を用いているようだ)。

原文

1.

Freude, Schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum.
Deine Zauber binden wieder,
Was der Mode Schwert <http://www.kanzaki.com>
Bettler werden Fürstenbrüder <http://www.kanzaki.com>
Wo dein sanfter Flügel weilt.

Seid umschlungen Millionen!
Diesen Kuß der ganzen Welt!
Brüder - überm Sternenzelt
Muß ein lieber Vater wohnen.

2.

Wem der große Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein!
Ja, wer auch nur eine <http://www.kanzaki.com>
Sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund!

Was den großen Ring bewohnt,
Huldige der Sympathie!
Zu den Sternen leitet sie,
Wo der Unbekannte thronet.

3.

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur,
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott.

Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahndest <http://www.kanzaki.com/music/lvb-sym9f.html>
Such' ihn überm Sternenzelt!
Über Sternen muß er wohnen.

試訳

1.

1V 「喜びよ、美しい神々の閃光よ
楽園の世界の娘よ
私たちは足を踏み入れる、炎に酔いしれつつ
天なるものよ、あなたの聖所へと
あなたの魔法の力は再び結びつける
世の中の時流の剣が分岐隔てていたものを、
乞食が王侯の兄弟になるのだ。 http://www.kanzaki.com/html/nlv-7>
あなたのその柔らかな翼が翹うところで」

1C 「抱きしめられなさい、何百万の人々よ!
このキスを全世界に!
兄弟たちよ、星の輝く天幕の彼方に
愛に満ちた父がいるに違いない」

2.

2V 「大きな幸いを得たひと、(すなわち)
ひとりの友の友となり
優しい妻を得たひとは
その喜びを共にしよう!
あなたがたとえたつたひとりの魂であっても
自分のものと呼べるものが世界の中にあるのならば!
そしてそれができないものは、そっと出ていくがいい
涙しながらこの集まりの外へ!」

この大きな環に住むものは
共感を募びはぐぐめ!
それは我々を星の世界に導く
あの未知なるものが君臨しているところへ

3.

3V 「喜びを飲む、全ての生きとし生けるものは
自然の乳房から
全ての善きもの、全ての悪きものも
そのばらの道を追い求めてゆく
喜びは私たちにキスと葡萄酒とを与えた、そして
死の試練をのりこえた友を;
快樂は虫けらに与えられ
そしてケルブが立っているのだ、神の前には!」

3C 「あなたたちはひざまづくのか、何百万の人々よ?
おまえは、創造主を感じるか、世界よ? Welt?
彼を星の輝く天幕の彼方に探せ!
星の彼方に彼はいるに違いない」